

妊娠するためには卵子とともに精子が必要です。不妊治療でも精液検査は重要なことで、その結果によっては女性に不妊原因が見つからなくても治療の方法が決まることもあり、体外受精を行う際には、受精方法を定めることにつながります。また、治療施設においては取り違えのないよう採精した容器の確認や管理上の責任があります。

そして、男性不妊症の場合、重度であれば特別な精子回収方法が必要となるため、その実施状況などを調べました。

#### 4-1 採精はどこで行う？

##### ● 体外受精時の採精場所は… ▶ 自宅採精が多い

採精場所は、自宅か通院先の採精室です。全体では、自宅が約6割で院内採精室が約4割です。自宅採精が多いのですが、この割合を施設ごとに詳しく見ていくとさまざまであることもわかります。

##### ● 自宅採精の場合、説明はどのように？ ▶ 妻にする

通院の主体が女性にあるため、自宅採精の説明を妻にして夫に伝えてもらうというケースが多く83%で、夫に直接説明するのは4%と低いことがわかりました。また、夫婦に説明すると回答が13%あり、中には100%妻へ、という施設もありました。自宅採精の説明はしっかり聞いてご主人に伝えるようにしましょう。

#### 4-2 容器の確認について ▶ 培養士と看護師が中心に行っている

採精された精液の容器は培養室に届けられます。管理は誰が行い、確認作業は誰が行っているのでしょうか？ 看護師、検査技師、培養士、ドクター、その他スタッフで調べたところ、培養士が130件で、看護師が83件、検査技師が31件で、ドクターが10件でした。確認は培養士と看護師が中心で行われています。

#### 4-3 採精方法で実施しているもの ▶ マスターベーションは全施設、TESEは40%の施設で実施

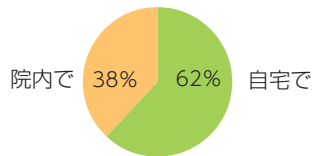
具体的な精子回収方法として実施していることを、マスターベーション、前立腺マッサージ、TESE、MD-TESE、MESA、ReVSA、PESA、電気、その他で調査しました。TESEやMESAなどは、泌尿器科が専門となることもあり、体外受精専門施設での実施が難しい施設もあるため、紹介先や連携先で行うこともあります。

#### 4-4 精子を回収する手術の対応 ▶ 紹介先での対応が一番多い

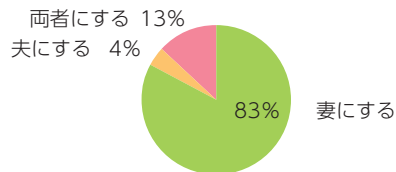
さらに4-3の手術対応について、実際にどこで行っているのかを、院内で行う、連携泌尿器科がある、転院先の紹介、転院を勧めるから選択してもらいました。TESEの実施は64件（42%）、MD-TESEは52件（34%）、MESAを行っている施設は16件（10%）ありました。

## 4-1 採精方法について

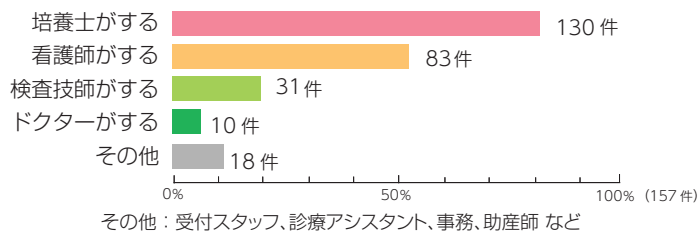
### ●採精場所の割合 (有効回答数 155)



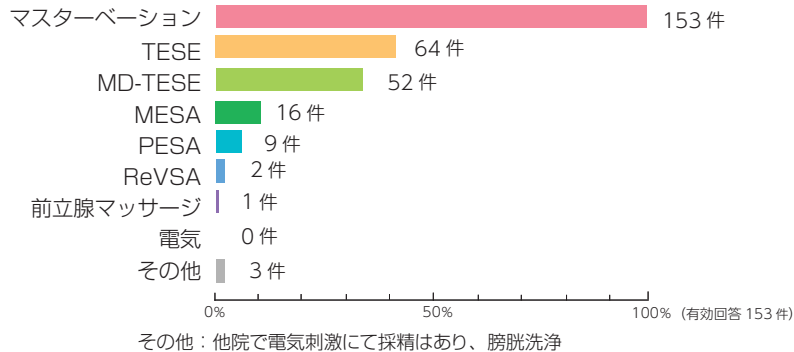
### ●自宅採精の説明は (有効回答数 135)



## 4-2 容器の確認は？



## 4-3 採精方法で実施しているもの



## 4-4 精子を回収する手術の対応

